

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年度	インターン番号	KB1103	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ホーチミン	
受入機関	Institute of Management and Technology Promotion (IMT)				
受入機関概要 (事業内容等)	従業員数5名。主に製造業の運営管理に焦点を当てた活動を実施。パートナーである外部スタッフも活用し、品質管理(5S、改善等)についてのコンサルティング、セミナー等を提供している。				
派遣期間	2014年9月9日 ~ 2014年12月6日				
現在の所属先	一般財団法人 日本品質保証機構		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	企画部 企画課・国際課		所在地	東京	
区分	中堅企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

所属組織のベトナム進出を促進するため、本インターンシップに参加してみないかと上司から話があったのがきっかけです。当時入構して2年に満たなかったため不安もありましたが、色々なことを学べる良い機会だと思い応募を決めました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

主に、ベトナムの品質管理体制に関する調査や、品質管理に関するイベント運営のサポートを行いました。企業訪問等を通じて、品質管理のサービスを必要とする日系・ベトナム企業の生の声を聞くことができました。また、品質管理(計測器の校正やJIS認証等)について、受入機関とのコラボレーションの可能性についてディスカッションを行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

派遣当時、入構2年未満ということもあり所属組織のサービスに関する深い知識がない状態でした。しかし、企業訪問や展示会で企業の方々と接していく中で、現地の日系・ローカル企業は品質管理に対してどのような悩みがあり、どのようなサービスを求めているのかを知ることができ、更に所属組織のどのようなサービスでその悩みを解決することができるのかを同時に学ぶことができました。インターンシップは、このようなことを実践的に学べるとても良い機会であったと思います。

インターンシップ風景



DUYTAN Plasticsへの訪問



日本で研修を行うベトナム人に向けた日本紹介プレゼン風景

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私は企画部国際課に所属しており、帰国後もベトナム進出のための事前調査やJETRO部品商談展示会への出展のため、何回かベトナムに出張しています。

インターンシップ中は色々な経験をしてきましたが、中でも私が一番活きていると思うのは、受入機関のスタッフと良い関係を築き上げられたということです。

現在、受入機関と共催でベトナムで製造業の品質管理向上を目的としたセミナーを開催する計画があり、その主担当として業務を進めています。受入機関とは初めての共催セミナーとなるため、最初は協力を承諾してもらうための提案書を作り、受入機関に送りました。受入機関は、「毎年HIDAインターンシップを通じて研修生も来てくれ、色々協力してもらいありがたいと思っているので」と快く承諾してくれました。それからは、セミナー開催までの段取り等の打合せのため、メールやWEB会議でやりとりを行ったり、ベトナムに出張して顔を合わせてミーティングしたりしています。

インターンシップで3か月間受入機関のスタッフと共に過ごしたからこそ、日本とベトナムで離れていても仕事をしやすく、ここまでスムーズに来れたと思っています。

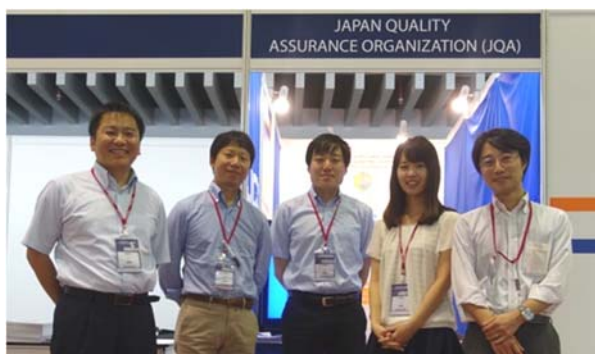
ビジネスや業務上協力する上で特に大切なのは、お互いの信頼関係だと思います。完璧な信頼関係を築くのは難しいことですが、インターンシップで受入機関と良い関係を築けたことが、帰国後も業務に好影響を与えていると実感しています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

参加する前は様々な不安もあると思いますが、参加してしまえば何とかせざるを得ないので、もし迷っている方がいれば思い切って参加することをお勧めします。インターンシップ中は目の前のことを必死でこなすことになると思いますが、環境適応力や問題解決能力を高める絶好の機会だと思います。

特に海外滞在の経験がない方にとっては、日本を客観的に見られる機会でもあるので、是非挑戦していただきたいです。

現在の活躍の様子



ホーチミンにおけるJETRO部品
商談展示会への出展